

内灘町向栗崎5丁目の柚寛也さん(25)は11日、加賀市山中温泉我谷町の工芸品「我谷盆」など、北陸の伝統工芸品と食材にこだわったカフェを、同町大学1丁目の道の駅「内灘サンセットパーク」に開業する。我谷盆を器として用い、もてなす。匠の技と豊かな食を伝え、発信する場に位置付け、にぎわいづくりにつなげる。

店名は「MOKU」で、店からは内灘大橋(サンセットブリッジ内灘)や河北潟、立山連峰を一望できる。我谷盆は木工家の森口信一さん(65)と京都府長岡京市に構える「風谷アトリエ」で制作したものを使用する。柚さんが、表面に彫り跡の残る素朴な美しさを気に入り、料理をのせて使うことにした。アマニ油を表面に塗って撥水性を高め、我谷盆を食器として飲食店で常時使用するのには初めてという。

コーヒーカップは九谷焼作家工藤完子さん(52)と小松市国府台2丁目に作った。カップとソーサーが一体となっている。側面の図柄には内灘町が「恋人の聖

内灘の柚さん、道の駅にカフェ

我谷盆を器にもてなし

伝統工芸品そろえ 食材でも北陸産を発信

地」であることを意識したハート模様や、内灘の海を連想させる貝殻、河北潟干拓地のスイカなどがあしらわれている。

11日のオープン時には、特製サンドイッチを提供する。フランス出身のパン職人が焼く「メティサイージュ」(小松市粟津町)のフランスパンに、富山県産肉にこ

我谷盆(わがたぼん) 江戸後期から旧我谷村(現加賀市山中温泉我谷町)に伝わる工芸品で、クリの木の板からのみを使って彫り、内側に丸みを帯びた平行線状の彫り跡が刻まれるのが特徴。もともとはクリの木の板で屋根をふいていた職人が冬の副業として作っていたとされる。1965(昭和40)年の我谷ダム建設によって村の大半が水没し、後継者が少なくなった。

だわる「メツゲライ・イケダ」(富山市古沢)のソーセージやベーコンを挟む。今後、扱う伝統工芸品、食材の幅を広げていく。

柚さんは「北陸には隠れた魅力がたくさんある。本物の工芸品を使って本物の食を味わう空間にし、内灘に多くの人を呼び込みたい」と話した。営業時間は午前10時半〜午後6時で、火曜定休となる。



食器として使う我谷盆や、九谷焼のコーヒーカップを紹介する柚さん＝内灘町大学1丁目の道の駅「内灘サンセットパーク」